



東北小だより

開校57年目

新座市北野3-1-1 TEL 048-471-2022
HP <https://e-tohoku-c-niiza.edumap.jp/>

～学校教育目標～
なかよく元気な子
よく考える子
すすんで働く子

令和7年度12月号
全児童数 786名



ゴールを目指して、今の自分は

～ 美しく 温かく 常に前進 東北小学校 ～

校長 斉藤 直之

令和7年も終わりを迎えようとしています。

学校は、4月から3月にかけてが、令和7年度となりますので、学校にとって今は、学年のまとめである3月に向けて、振り返りを行う、大切な12月とも言えます。

そのような中、「本当の意味での平等」について考えてみました。

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と福沢諭吉は「学問のすすめ」で説いています。しかし、この続きがあるのはあまり知られていません。

「されども今広くこの人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり下人もありて、その有様、雲と泥との相違あるに似たるは何ぞや。」と続きます。

話は変わりまして、ある靴のメーカーであった実話です。この会社は、社長のワンマン体制で、給料も社長が決めていました。同じ年齢でも給料が違っていました。それに対して不満をもつ社員もいましたが、何も言えませんでした。社長が亡くなり、不満をもった社員たちが、給料は皆平等にと掲げ、みんなの給料を同じくらいに決めました。ところが、この会社はすぐに倒産してしまいました。なぜかという、どんなに一生懸命働いても、適当にさぼりながら働いても、給料は同じなのです。それならば、適当にやっていた方が楽に決まっています。倒産は必然といえるでしょう。努力した人とさぼった人が同じ給料では果たして平等と言えるでしょうか。

「平等」とは、いっせいに差別なくスタートラ

インに並ぶことです。しかし、100メートルを走り終えるゴールにおいては、個々の能力や努力に応じて差が出てくるのは当然です。もしもゴールが「平等」でなければならなかったら、一番遅い人に合わせてゴールしなければならないという不自然が生じます。

仕事に置き換えれば、怠ける人に合わせて「平等」と評価されるので、まじめな人はやる気をなくします。そのような集団は、社会では生き残れません。ゴールを「平等」にするという考え方は、実は「悪平等」なのです。

だから、福沢諭吉は、人間は「平等」だとした上で、一人一人の「努力の結果」は様々で、もし幸せを求めるのなら、自らを高める学問をしなければならない。と続けたのです。

靴の会社のように、怠ける人が「平等」を逆手にとることがありますが、「平等」は努力によってこそ、手に入れることができるものといえます。結果というものは、努力の度合いによって、異なることとなります。

本校では、ゴールへ向かう「過程」を常に大切にしてきました。この12月までに、子供たちは、どこまで歩みを進められたでしょうか。ゴールに向かう歩みの足跡は、一人一人の努力の賜物と言えます。学校でいうゴールは、3月となり、まだ少し先となりますが、今後の一人一人の歩みに注目したいと思います。

この年末・年始の節目は、一年を振り返り、目標を立てるよい機会となります。新しい年に家族みんなで新たな決意を確認する。そのような家族団らんの場を設けていただければと思います。よいお年をお迎えください。